

グリーンファクトリーの推進

廃棄物の削減、化学物質の排出量削減、大気、水域、土壌への汚染防止、騒音、振動騒音を防止するなどの環境に配慮した生産工場「グリーンファクトリー」を追求しています。

化学物質の排出量削減

FDKグループでは「化学物質管理規程」を定めて、事業所内からの化学物質の排出量を抑えて環境負荷の低減を図るとともに、適正な化学物質の管理を行っています。生産工程で使用している化学物質については、事業所ごとに使用量、排出量と廃棄物に含まれる事業所外への移動量を把握しています。

第四期環境行動計画の目標

VOC(揮発性有機化合物)の排出量を、2010年度末までに2000年度実績比30%削減する

VOCの排出量削減

VOCは、常温常圧で蒸発し空気中に容易に揮発する有機化合物の総称です。このVOCが土壌や地下水を汚染したり、大気中に放出されると光化学反応によってオキシダントやSPM(浮遊粒子状物質)の発生源として関与していると考えられており、VOCを原因とする大気汚染での人体に及ぼす影響が懸念されています。

2006年4月1日よりVOCの国内排出規制が施行されました。FDKグループの国内拠点には、大気汚染防止法で対象となる揮発性有機化合物排出施設はありませんが、電機・電子4団体の自主的な取り組み指針に沿って、2007年度から20物質を対象としたVOCの排出量削減に取り組んでいます。

具体的な取り組みとしては、各拠点単位で年間1トン以上排出するVOCについて削減計画を立てて、物質の代替や工程の見直しを行っています。

活動の結果、VOCの排出量は国内生産拠点全体で31.2トンとなり、2000年度比では29.5%削減、昨年度比では37.7%の削減となりました。これは、削減活動に加え、液晶モジュールインバータの生産が減少したことが影響しています。

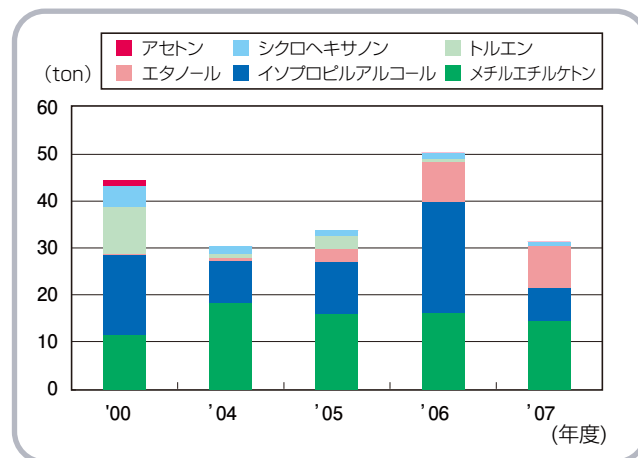
PRTR集計結果 2007年度

国内工場合計(取扱量100kg以上)

単位:ton/年

化学物質名	取扱量	排出量		移動量		消費量	リサイクル
		大気	水域	廃棄物	下水道		
マンガンおよびその化合物	3,959.43	0.00	0.00	27.09	0.00	3,932.33	0.00
鉛およびその化合物	5.50	0.00	0.00	1.40	0.00	4.04	0.06
ビスフェノールA型エポキシ樹脂	4.63	0.00	0.00	0.00	0.00	4.62	0.00
銀およびその水溶性化合物	2.71	0.00	0.00	0.00	0.00	1.75	0.96
ニッケル化合物	1.51	0.00	0.00	0.06	0.00	1.45	0.00
ポリ(オキシエチレン)＝オクチルフェニルエーテル	0.99	0.00	0.00	0.99	0.00	0.00	0.00
フタル酸ジ-n-ブチル	0.82	0.00	0.00	0.04	0.00	0.78	0.00
ホウ素およびその化合物	0.79	0.00	0.00	0.00	0.00	0.79	0.00
トルエン	0.44	0.23	0.00	0.21	0.00	0.00	0.00
モリブデン	0.14	0.00	0.00	0.00	0.00	0.14	0.00

VOC排出量の推移



PRTR対象物質の集計

PRTR対象物質に関して、2007年度も、PRTR法に基づきの国内事業所における化学物質の排出・移動量についての報告を行いました。PRTR法では対象化学物質の年間取扱量が1トン以上のものが、行政への報告対象となっていますが、FDKグループでは、0.1トン以上のものから収支管理を行っています。

廃棄物減量化対策（廃棄物ゼロエミッション）

廃棄物の3R(リデュース、リユース、リサイクル)活動により廃棄物の発生をできるかぎり抑制し、発生した廃棄物は分別・リサイクルなどを行い、地球環境への負荷低減に努めています。グループ会社のFDKエコテック(株)では、パソコンなどの情報機器を回収し、廃プラスチック、ガラス、金属などの分別、再資源化などによる循環型社会形成に向けた事業活動を行っています。(P32参照)

第四期環境行動計画の目標

廃棄物発生量を、2009年度末までに2006年度比3%削減する

廃棄物削減実績

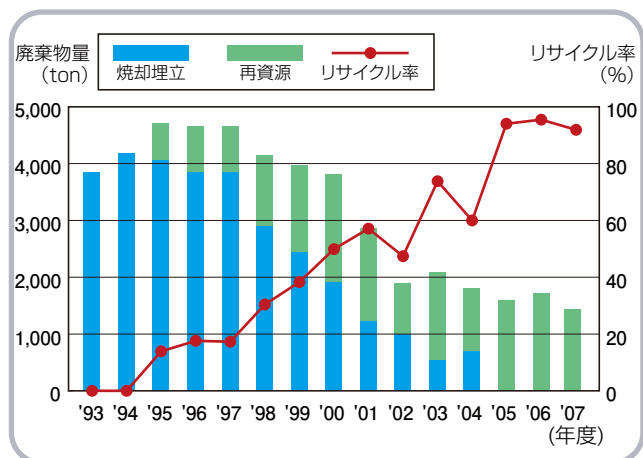
2007年度においては、金属類や資源の市場価格上昇も活動の追い風となり、積極的に有価物(経済上の価値のある有体物として売却により収入が得られるもの)への転用を進めました。また、梱包材を通い箱へと変更し、廃棄していた原材料の工程内リサイクルやパレットやプラスチック容器類などの社内転用も図りました。

これらの活動の結果、廃棄物発生量は1,079トンとなりました。液晶バックライトモジュールなどの生産が減少したことも影響し、廃棄発生量は昨年度比では16.6%の削減となりました。

ゼロエミッションの継続

2007年度も、ゼロエミッションガイドラインに基づいた活動の継続により、年間を通じての廃棄物ゼロエミッションを達成しました。なお、ゼロエミッションは2004年度末に達成し、以降継続しています。

廃棄物量とリサイクル率



各廃棄物の主な有効利用方法

- 汚泥：セメント原料化、路盤材の原料
- 廃プラスチック：プラスチックの原料化、高炉燃料
- 廃酸、アルカリ：中和剤
- 廃油：再製油化、助燃料
- 紙くず：再生紙化、包装時の緩衝材、サーマルリサイクル化
- 金属くず：製鉄原料化
- 植物性残さ(食堂生ゴミ)：堆肥化

FDKの廃棄物ゼロエミッション

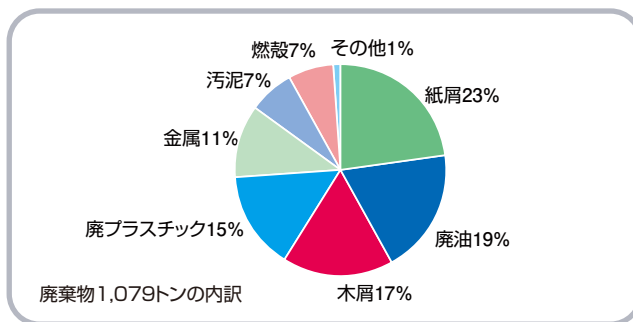
定義

各事業所から排出される不要物を100%有効利用し、単純焼却や埋立処分などをゼロにすること

対象

汚泥、廃酸、廃アルカリ、廃プラスチック、廃油、金属くず、ガラス・陶磁器くず、木くず、紙くず、繊維くず、動植物性残さ(食堂生ゴミ)、浄化槽汚泥

種類別の状況



廃棄物集計区分の見直し

2007年度は、これまでの廃棄物の集計の定義を整理して見直しを行いました。これまでゼロエミッション対象外廃棄物を除いたリサイクル率の算出により100%達成を目指していました。しかし、このリサイクル率が100%を達成したため、母数に医療系廃棄物などのゼロエミッション対象外物質を含めた計算方法へと変更しました。この結果、2007年度のリサイクル率は92%となりました。